

豊かにたくましく生きていく力を育てるために

市制60周年記念 伊万里市教育研究大会

12月25日、市民センターで第52回市教育研究大会が開かれました。これは、子どもの豊かな心の育成と、確かな学力の向上を目的に、市教育委員会などが毎年開催しているもので、市内外から学校関係者約600人が参加しました。

会員発表では、大坪小学校の馬場美奈教諭が『学力・学習状況調査の結果を踏まえた思考力・表現力の育成』をテーマに、研究成果を発表しました。各教科の授業で、図やグ



↑記念講演で、学力を『幸せになるための知識や技術』と説いた長谷川さん

ラフなどを使って算数的にコミュニケーションを図ることを指導し、学校全体で子どもたちの論理的な思考力や説明力を高める取り組みなどが報告されました。

その後、茨城大学社会連携センター准教授の長谷川幸介さんを講師に招いて、『学校と地域の教育力を高めるために』と題した記念講演が行われました。長谷川さんは、子どもの成長を支える学校・家庭・地域社会の連携が重要だ

と指摘し、学校が学力を、家庭が自己肯定力を、地域が社会力を授けることで、子どもたちが『幸せになる』方法を学んでいくと説きました。

参加者は、大会を通じて、子どもたちの心の教育とさらなる学力向上のために必要な教育活動について、理解を深めていました。

医王保育園で、園児たちが楽しく正月遊び

手づくりの『たこあげ会』

1月19日、医王保育園で『たこあげ会』がありました。これは、伝統的な正月遊びの一つであるたこ揚げを園児に体験してもらおうと、毎年実施しているもので、同園では20年以上前から続けています。

使用したのは、『ぐにゃぐにゃ』といわれる洋だこの一種で、ビニールシートを切り抜いた本体に、竹ひごの骨

と和紙のしっぽをはり付けたもの。園児たちは、保育園の先生と一緒に作ったたこに、思い思いの絵を描いて、この日のために準備していました。

年少組から年長組まで約30人の園児たちは、強風の中、糸が絡まったり、たこの足を破ってしまったりと悪戦苦闘しながらも、元気いっぱいいたこ揚げを楽しんでいました。



↑風に乗って宙を舞うたこに、笑顔がこぼれる園児たち

郷土の文化財

史跡大川内鍋島窯跡⑤

●問合先 生涯学習課

(☎) 33186

明治以降の大川内山

江戸時代、大川内山の藩窯で働く陶工たちは、將軍への献上用をはじめ、幕閣や諸大名などへの贈答用の磁器を生産することで、佐賀藩から扶持(給料)を与えられていました。

しかし、明治維新の廃藩置県によって、佐賀藩が消滅し、藩窯の操業も終わりを告げると、陶工たちの生活は一変します。藩の管理下での生産・販売体制とは違って、自己努力による製品の販売を余儀なくされました。製品の採算や販路などに多くの問題を抱え、経営は困難を極めました。やがて、陶工たちの多くは生活に困窮し、職を求めて大川内山を離れていきました。



↑明治期の大川内山陶工が作った磁器の作品

一方、大川内山に残った陶工たちは、生活のために、鍋島焼のような高級品ではなく、廉価な製品を生産・販売するようになります。また、鍋島焼の伝統技術を駆使した製品を生産・販売するために、共同で会社(精巧社)を設立したり、個人で販売方法を工夫したりする人たちも現れました。

このように、大川内山全体で生き残りを賭けたさまざまな努力が重ねられ、鍋島焼の伝統は今日まで守られています。